

介護士・保育士の今



教育随想

慈恵福祉保育専門学校

学監 久米 明美 氏

少子高齢化が進み、介護士・保育士不足が深刻な社会問題となっている現代。本校は、地域社会の要請に答え、平成六年、西三河で初の介護福祉士の養成施設「慈恵福祉専門学校」をスタートさせました。その後、平成十六年に現在の「慈恵福祉保育専門学校」と改名し、新たに保育士の資格取得もできる学校となりました。

現在は介護福祉学科（二年課程・定員八十名）・保育学科（二年課程・定員八十名）を配しており、それぞれの学科では、専門分野の国家資格が取得可能となります。

介護福祉士は、今まで生きてこられた人生の過程を受け入れ、その方がその方らしく最期を迎えられるよう専門的な知識・技術を持って関わっていく国家資格です。

保育士は、こどもの発達段階に合わせた柔軟な対応、こどもの少しの気持ちの変化を見逃さない観察力、行動の先を見通し危険を予測するな

どの専門性を必要とする国家資格です。どちらの学科も日本の国の礎を荷負う職種です。

現在、国は外国人介護士の就労を推奨しております。それに伴い、平成二十九年より、介護福祉学科では、ベトナム・フィリピン・ネパール・バングラデシュと徐々に多国籍の留学生が入学し、校内でもグローバル化してきています。資格も「留學」「技能実習」「介護」「特定活動」など、多くの在留資格があります。留学生受け入れ当初は、文化の違いによる行き違いがありました。しかし、「介護士になる」という目標に向けた熱心な取り組みや障がい者・高齢者の方々への愛情溢れる真摯な姿は、福祉の心に国境はないと強く感じさせてくれます。

また、彼らはハングリー精神旺盛で、ひたむきに必死に取り組む姿は、現代の日本の若者に欠けている大切なものを思い起こさせてもらえます。

本校の校訓は「自己覚知」です。校舎三階の各階に全身を映す大きな鏡があり、毎朝登校時、鏡を見て自分の身なり・心を映し出し、己と向き合います。誰しも完璧な人間はいません。学生達には己を知り、常に自分と向き合い、自己研鑽することを期待しております。

社会情勢に伴い、学校環境は今後も変化していくことが予想されます。その状況に合わせ、柔軟に対応していきたいと考えていますが、教育方針においては常に妥協することなく、教職員一丸となって即戦力となる介護士・保育士を育成していきたいと思っております。

（くめ あけみ）



令和3年3月1日
3月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
慈恵福祉保育専門学校
学監 久米 明美 氏
- この人に聞く…………… 2
愛知県社会福祉協議会
ボランティアセンター運営委員会委員長
鈴木 盈宏 氏
- 羅針盤…………… 2
国語科指導員 村上 禎男
- ふれあい…………… 3
三島小学校
教諭 勝本ゆき子
- 特集…………… 4
1年のあゆみ
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
受け継がれる「男川メソッド」
(昭和42年)
- この本を…………… 8



助け合える社会を目ざして

愛知県社会福祉協議会
ボランティアセンター運営委員会
委員長 鈴木 盈宏氏

トヨタ自動車に勤務の傍ら、平成五年、トヨタボランティアセンターの立ち上げに尽力する。阪神・淡路大震災や東日本大震災の時には、被災者とボランティアに携わる人をつなぐコーディネーターとして活躍した。現在は、全国の社会福祉協議会、各種団体、学校などでボランティアリーダーを育てる研修を行ったり、防災講座の講師を務めたりしている。

なぜボランティアに携わるようになったのですか

高校生のときに、バンドを組んで養護施設へ演奏に行ったら、ことのほか喜んでもらえ、自分も楽しかったことがきっかけです。卒業後は、家族でバンドを組み、いろいろな施設を慰問し

ました。トヨタ自動車へ入社後も、ずっと続けていました。

活動が大きく変化したのは、平成五年に、トヨタ自動車が、企業として日本で初めてボランティアセンターを設立したときです。その中心的役割に私が任命されました。初めてのことで何をどうしたらよいか、戸惑いばかりでした。とにかく勉強して、組織としてどう機能させるのかを考えました。

ボランティアコーディネーターの役割とはどんなものですか

コーディネーターは、安全確保が第一優先です。まず、ボランティアの人に、「依頼以外は一切やってはいけない」というルールを教えます。あるとき、派遣したボランティアが、依頼を終えた後、被災者の方から「離れにある家族の位牌を取ってきてほしい」と涙ながらに頼まれたことがあります。ボランティアは、喜んで位牌を取りに行きました。ボランティアの立場からすれば、頼まれたことを快く引き受けただけのことです。しかし、一つ間違えると命の危険があります。私は心を鬼にして、その人をきつく叱りました。依頼以外はやりたくても受けてはいけないのです。ただ、その人の気持ちには痛いほど分かります。その後「でも、ありがたい」と涙ながらに言ったことは、今でも忘れられません。公私混同できないジレンマを感じることもあります。誠意は、必ず相手に伝わります。コーディネーターとしてボランティアには誠意をもってやってほし

いと常に伝えていきます。

忘れられない出来事はありますか

二十年ぐらい前、名古屋フィルハーモニー交響楽団が、障がい者を招き、福祉コンサートを開きました。会場案内など、皆ボランティアです。N T Tの技術者が開場前に、ある耳の不自由な方のために、半年間かけて骨伝導で音を聞くヘッドホンを開発したこと、そして、その方が、涙を流しながら初めて音楽を聞いたことを伝えました。その瞬間から、ボランティアの行動が変わりました。その日は、いつも以上に、皆で心を込めて活動し、感動を共有しました。

岡崎の子供たちや教員に、メッセージをお願いします

子供たちには、自分たちでチャレンジするという気持ちをもってほしいと思います。先生は、それをうまく引き出すファシリテーターの役割を果たしていただきたいと思っています。大切なのはプロセスです。どのような場面でも、子供たちを信じ、認め、褒めることで、子供たちの成長をサポートしてください。そうすれば、相手のことを考えて、自分から行動できる子供が育つと信じています。



氏名 すぎき
みつひろ
生年月日 昭和二十一年
十一月二十一日
住所 岡崎市若松東



深い学びを生むもの

国語科指導員 村上 禎男

国語科では「深い学び」の達成を支えるものとして、「言葉による見方・考え方」が挙げられている。つまり、言葉で理解したり、表現したりしながら、自分の考えを広げ、深めることが国語科の授業では求められている。

中学校三年生の物語文「故郷」。主人公の「私」は、二十年ぶりに故郷に帰るが、親友や町の変貌に戸惑うという物語である。A中学校のB教諭の授業では「二十年という歳月は、故郷を『私』にとつてどういう存在にしたのか」と学習課題を設定した。「ほんやりと」と書いてあるから、遠い存在に変わった」等、悲観的な意見が続く中で、「希望に進むための存在」という前向きな考えの発言が出た。これまでの流れと異なる発言に、教室の空気が変わった。すかさず、B教諭は「どこからそう考えた」と問い返した。すると、そ



思いに寄り添う

三島小学校

教諭 勝本 ゆき子

学校再開から一月が経過した。入学したばかりの一年生のAさんは、言葉を発せずじまい。私の問い掛けに下を向き、うなずくばかりである。私は、Aさんが少しでも話せるようになればと願い、毎日声を掛け続けた。しかし、声を発することはなく、時間だけが過ぎていった。

二学期に入ると、やっと小さな変化が見られた。ある日、Aさんが一人たらずみ、友達を見つめていた。私は、その姿を見て、友達と関わるのが何か突破口になるのではと考えた。「一緒に粘土をしたいの」と尋ねると、Aさんはうなずいた。私の子供たちに、Aさんが一緒に遊びたいことを伝えると、粘土をして子供たちが「Aさん、おいで」と快く受け入れてくれた。するとAさんは、小走りで粘土を取りに行き、輪の中へ入った。私は、Aさんが一人

上手に友達と関われないからで、本当は友達と遊びたいと考えていることによく気付いた。

その日から私は、「Aさんも入れてね」「Aさんは恥ずかしがり屋だけど、遊びに誘ってあげるとすぐくうれしいと思うよ」と子供たちに声を掛けるようにした。友達と関わることで、Aさんから自然と言葉が出てくることを期待したからである。

私は、Aさんのよさや気持ちの子供たちに伝え続けた。次第に子供たちは、Aさんの思いをくみ取り、「Aさん、一緒に遊ぼう」と声を掛けるようになった。Aさんはその誘いがうれしくて、今度は自分で友達のところへ行つて、服を引っ張り、一緒に外へ出るようになった。言葉は発しないものの、自分の意思を態度に表せるようになったのだ。もう、私が入らなくても、大丈夫そうだと思えた。

しかし、ある日、Aさんと友達の間でトラブルが起きた。Aさんは、眉間にしわを寄せ、伏し目がちだ。「何か困ったことがあったの」という私の問い掛けに、目を合わせずじまいなAさんの目を見て、私は、何か伝えたいことがあるはずだと思い、思い切って、「何が嫌だったのかな」とAさんの言葉を求めた。Aさんのマスクが微かに動く。きつと話してくれる。そう信じて口元に耳を近づ

けた。十数秒の長い沈黙の後、

「ハンカチを……とられちゃった。」

たどたどしく、か細く震えた声で、Aさんは初めて言葉を発した。短い言葉の中に、自分の気持ちを伝えたいという、確かな思いがこもっていた。私は、「勇気をもつて、話してくれてありがとう。よく話してくれだね」と頭をなで、褒めた。その後も言葉が続くように「だれに」「何をしていたときに」など、Aさんの思いに寄り添いながら問い掛けた。それによって心が少しほぐれたのか、Aさんは、ゆっくり事情を話すことができた。状況や気持ちを丁寧に紐解いていくことで、互いの気持ちが通じ合い、解決へとつながった。

具体的な言葉を引き出せるように、問い掛けを工夫することで、今では、必要な場面で言葉が少し出るようになった。小さな変化かもしれないが、Aさんと私にとっては大きな変化である。Aさんが、自分の思いを自分で確かに伝えられるよう、これからも寄り添っていきたい。



の生徒は教科書を見て、「美しい故郷は失われたけれど、金色の月は変わらず出ている」と回想と現在の情景描写の共通点を挙げた。教師の狙いに迫る発言である。しかし、B教諭は「なるほど、関わって言える人はいますか」と続ける。あえて教師が価値付けしないことで、生徒はさまざまな視点で発言し、交流することができた。

授業は佳境に入る。B教諭は「回想と現在、二つの描写がどう違っているのか考えながら読もう」と指示した。この指示によって、生徒たちの中に「視点の移動が、回想では上から下、現在では下から上」という気付きが生まれた。これを受けて「この違いが示すものは何か」と考えることで、生徒たちは「つらい現実の中でも、上を見て希望をもとうとしている」と読み取りを深めることができた。

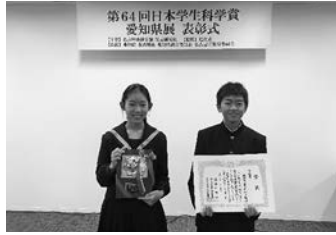
教師が「どこからそう考えた」と問い返すことで、子供は本文の言葉に着目し、自信をもって発言できるようになる。また、教科書からの新たな情報を基にした考えなのか、自身の経験や既存の知識からの発言なのかを認識できるようになる。それが、言葉による見方・考え方を働かせて思考を整理し、考えを広げたり深めたりすることにつながるのである。



▲2020 愛知県駅伝競走大会 (矢作北中)



▲2020 愛知県駅伝競走大会 (竜海中)



▲日本学生科学賞愛知県展 (美川中)



▲野外での合唱コンクール (新香山中)

11・16	11・14 15	11・11	11・8	11・1		10・31	10・30	10・28	10・25	10・24	10・21	10・18	10・17 18
没後十年第9回「家族を歌う」河野裕子短歌賞、青春の歌部門 入選 竜海中1年 内山 芽泉	中学校A部門 優秀賞 六ツ美中 中学校B部門 優秀賞 竜海中	第26回日本管楽合奏コンテスト全国大会(動画審査) 優秀賞 岩津中	第48回岡崎のハーモニ(形を変更して開催) 第26回日本管楽合奏コンテスト全国大会(動画審査) 優秀賞 六ツ美中	日本学校合奏コンクール全国大会グランプリコンテスト(録音による審査) 銀賞 岩津中	東海マーチングコンテスト 銅賞 竜海中	第9回日本学校合奏コンクール2020全国大会 ソロ部門中学の部ヴァイオリン 銅賞 福岡中3年 都築 那葵	額田中学校研究発表会(形を変更して開催) 銅賞 福岡中3年 都築 那葵	第9回日本学校合奏コンクール2020全国大会 ソロ&アンサンブルコンテスト 銅賞 福岡中3年 都築 那葵	第2回愛知県中学生新人陸上競技大会 男子一〇〇mH 二位 竜海中2年 杉浦 颯志 男子八〇〇m 優勝 城北中2年 宮下 颯汰 男子三〇〇m 二位 南中2年 尾田 悠翼 男子走高跳 三位 城北中2年 神田 悦士 女子一〇〇mH 二位 福岡中2年 大竹 翔太 女子一〇〇mH 三位 矢作北中2年 大和 令奈 南中2年 高塚 虹百 女子八〇〇m 二位 矢作北中2年 内田 詩乃	第64回日本学生科学賞愛知県展 最優秀賞(名古屋市長賞) 竜海中3年 山内 幸生 最優秀賞(名古屋市長賞) 美川中1年 森田 晴空 最優秀賞(名古屋市長賞) 東海中3年 古田 るり 最優秀賞(名古屋市長賞) 美川中3年 今井 雫月 最優秀賞(名古屋市長賞) 六ツ美中2年 蜂須賀 蒼 最優秀賞(名古屋市長賞) 美川中	第64回愛知県統計クラブコンクール パソコン統計グラフの部 金賞 知事賞 竜美丘小3年 吉田 六花 金賞 知事賞 新香山中3年 築山 拓虎 第一部(小学校一〜二年) 金賞 知事賞 三島小2年 判治 里紗 金賞 知事賞 三島小3年 森本 愛菜 第二部(小学校三〜四年) 金賞 知事賞 井田小4年 杉浦 彩輝 金賞 知事賞 井田小4年 永田 愛実 第三部(小学校五〜六年) 金賞 知事賞 三島小5年 織田浩太郎 金賞 知事賞 三島小5年 判治 直哉 第四部(中学生) 金賞 知事賞 東海中3年 加藤 真羽・古田 るり	JOCユニオアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020 男子一五〇〇m 優勝 竜海中3年 杉田 晃大 男子砲丸投 六位 福岡中3年 高木 流輝 男子走高跳 出場 北中3年 松尾 魁星 女子一五〇〇m 優勝 六ツ美中3年 小嶋 聖来 九位 竜海中3年 藤谷 鈴奈 十四位 六ツ美中3年 鈴木 愛菜 八位 城北中3年 片山 心菜 女子四種競技 優勝 翔南中3年 林 美希 (※日本中学記録 MVP)	

3・19	3・28	2・2	1・29	1・29	1・27	1・16	1・14	1・5	12・24	12・19	12・17	12・12	12・6	12・5	12月	11・24	11・24	11・21
小学校卒業式(感染対策を行って実施)	中学校卒業式(感染対策を行って実施)	愛知県緊急事態宣言解除	第32回読書感想文愛知県コンクール 優良賞	第56回読書感想文・読書感想文コンクール表彰式(中止) 会長賞 岡崎市額田みどりの少年団	第64回岡崎市中学校書き初め展(中止) 特選 愛知県緑化推進委員会 岡崎市額田みどりの少年団	愛知県に緊急事態宣言が発令 親熱・表彰者合同祝賀会(中止)	第66回青少年読書感想文愛知県コンクール 愛知図書館協会賞 小豆坂小5年 岩田 光功	第24回「俳句の里」山梨県吹市 全国小学生・中学生俳句会 小学生の部 秀作 竜谷小6年 窪 海翔	岡崎教員研修会(四季の会・冬)(中止) ※一月 全小中学生にタブレット端末配付完了	才能開発教育研究財団理事長賞 学研賞	第57回全国児童才能開発コンテスト 作文部門 低学年の部 井田小1年 西 優成 作文部門 高学年の部 三島小6年 杉田 遥香 三島小4年 渡邊 佑輔 三島小6年 矢作南小6年 鬼頭 佐輔 六ツ美南小1年 浅岡 結斗 梅園小1年 高橋 咲理 本宿小3年 嶺石 実花 梅園小4年 南部 美雨 六ツ美西部小5年 市川 紗帆 六ツ美南部小6年 小山 景大 六ツ美北部小4年 石倉新良太 愛宕小2年 石川 稀唯 六ツ美南部小4年 世古 夢琉 六ツ美南部小5年 田中 咲希 六名小5年 金山 晴基 竜美丘小6年 小里 穂花	第45回三河の菊まつり 学校創作花壇 愛知県知事賞 豊富小	第61回「小学校作文コンクール」 個人の部 特選(CBラジオ賞) 竜谷小5年 三宅 結翔 個人の部 特選(CBラジオ賞) 緑丘小6年 立山宗一郎	タレット端末の配付(小一〜三)	第70回社会を明るくする運動作文コンテスト 中学生の部 愛知教育委員会賞 翔南中1年 池山 花	岡崎教員研修会(四季の会・秋)(形を変更して開催) 第70回社会を明るくする運動作文コンテスト	愛知県知事杯 第6回中学生軟式野球大会 三位 矢作北中学校	

お知らせ

●教育最新情報

◆総合学習センター情報

【多目的ホール完成】

これまで教職員の研修拠点としての役目を果たしてきた総合学習センターも、着々と改修工事が進められ、いよいよ完成が近づいている。

その中でも今回の改修工事の大きな特徴の一つである多目的ホールが令和三年四月一日(木)にグランドオープンを迎える。また、三月二十五日(木)には、同会場にて完成式が予定されている。

多目的ホールは、収容人数が四百名となる。イスが可動式であり、普段は壁に収納されている。またパーテーション

ンで仕切ることができると、百名程度の会議が三つ同時に開催することができる。このようにホールとしての利用だけでなく、講演会、研修会、会議、作品展など、様々な目的や用途に合わせて利用することが可能となる。

さらに多目的トイレ「みんなのトイレ」も設置され、清潔で快適な利用環境も整えられている。



【研修施設】

研修施設として、今回、新たにICTルームが設置される。パソコンやタブレット、電子黒板など、様々なICT機器が配備され、研修内容に合わせて活用することができ。ICT機器を活用した研修により、教員のICT活用技術の向上が期待される。

また各研修室には、プロジェクターとスクリーンが常設されている。さらに洗い場も設置される。理科や家庭科、図工や美術、さらには書写の研修など、簡単な実験や実技講習を行うことができるようになり、これまで以上に幅広い研修が可能となる。

駐車場も十分確保され、四月からは、充実した施設において、さらに教員の力量向上を図る場として、リニューアルした総合学習センターの果たす役割が大いに期待されている。



●表彰関係

◆二〇二〇年度愛知県アンサンブルコンテスト県大会

○クラリネット八重奏

銀賞 竜海中

○金管八重奏

銀賞 竜海中

○金管八重奏

銀賞 南中

銀賞 翔南中

○打楽器八重奏

銀賞 南中

○打楽器三重奏

銀賞 岩津中

◆第六十六回青少年読書感想文 愛知県コンクール

【愛知図書館協会賞】

小豆坂小 岩田 光功

【優良賞】

美合小 錦戸 優星

羽根小 田口さくら

三島小 判治 里紗

六名小 上蘭 愛莉

井田小 神谷 憲亮

井田小 海老澤亮誠

愛宕小 林 果鈴

常磐東小 長谷川舞依

矢作南小 鬼頭 佑輔

矢作南小 早川 奏飛

矢作南小 太田みのり

甲山中 中嶋 悠

◆第三十二回読書感想画 愛知県コンクール

【優秀賞】(全国へ)

岩津小 近藤 湊亮

井田小 岡宮 樹

【優良賞】(全国へ)

連尺小 清水松菜乃

竜美丘小 杵名 美月

六ツ美中 萩原 光希

【優良賞】

上地小 小林 優碧

岡崎小 中野 有璃

根石小 大野 月乃

井田小 宮崎 友希

上地小 尾崎 明莉

六ツ美中 竹内絵里菜

◆第六十四回日本学生科学賞 中央審査委員会

【入選一等】

美川中 今井 雫月

【入選二等】

美川中 森田 晴空

◆愛知県みどりの少年団交歓会 活動発表

【特撰】

(愛知県緑化推薦委員会会長賞)

額田中 岡崎市額田

みどりの少年団

●プレクラスだより

希望をもって

室長 荒井 留美

「これから自分の学校に戻ります。日本語をもっと頑張ってください、みんなと一緒に勉強できるようにします。友達をたくさん作って活動を頑張ってください。楽しい生活をしていきたいです。」

これは卒業式でのAさんの言葉だ。Aさんに限らず、卒業していく子供たちはどの子も同じような思いをもって本クラスを後にする。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外国から編入してくる児童生徒は多くはない。それでも、小学生七名、中学生十七名が本クラスを利用した。ブラジル、中国、フィリピン、ネパール、ベトナムと国籍も様々だ。

本クラスでは、日本語を学ぶために、それぞれの母語で理解することが大切であると考えている。二年目を迎え、各言語に合わせた独自のテキストとワークシートを作成し、活用した。子供たちは、

ひらがな、カタカナの文字の学習から始め、小学校二年生程度の漢字、日本の学校生活や文化、簡単な日常会話、初歩的な算数・数学、英語などの学習を終えて卒業する。短期間にこれだけの学習をすることは、大変なことである。しかし、在籍校に戻って、同級生と同じように学習できるまでには、なかなか至らない。

だからこそ卒業式に私たちがいつも伝える言葉がある。「精一杯努力しなさい。分からないことは尋ねなさい。きつと頑張るあなたを、友達が、先生方が助けてくれる。」子供たちの輝く明日を祈るばかりだ。



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

竜
南
中

野
々
山
真
衣

受け継がれる「男川メソッド」の気風 (昭和42年)

写真提供：男川小学校

男川小学校六年生の子供たちが、本校独自の漢字ノートに真剣に鉛筆を走らせている。本校は、昭和四十一年に、市から国語教育の研究指定(三か年)を受け、漢字教育に注力した。大学教授を講師に招き、独自の漢字ノートを作成して、「男川メソッド」として学びを進めた。

時代は平成を経て、令和になった。「岡崎版GIGAスクール構想」元年の今年度、個別最適化された学びを目ざし、子供たちは一人一台のタブレットを手にプログラミング的思考を着実に深めている。学びの最先端に臨む気風は、プログラミング教育への挑戦と形を変え、今も受け継がれている。



特別な一年が終わりを迎える。先の見えない不安や多くの制限がある中でも、岡崎の教育は確実に進歩を続け、子供たちは活躍している。

歩んできた道をしっかりと振り返る。もう一度足元を見つめ直し、そして未来を見据える。一歩一歩、確かに歩みを進める教師でありたい。

とホ

本当のボランティア精神とは何か。相手の立場になって考え、自分にできることを、心を込めて行う。それがよりよい学校や地域づくりに向けての第一歩となる。

一人一人がじっくりと考える。みんなで真剣に話し合う。共に学び合い、支え合える、そんな教室を作っていきたい。

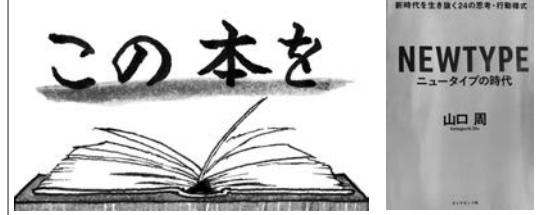
弥生



▲コロナ禍でできることを(六名小)

土や木の枝から、新芽が出始めた。厳しい寒さに耐えた植物や動物が動き出す。温かい風が吹き、春の訪れに胸が躍る。

出会いと別れのとき。卒業生は、仲間と過ごした日々を思い出し、別れを惜しむ。かけがえない大切な思い出を胸に、新しい世界への扉が、今、開かれる。



*ニュータイプの時代 山口 周
ダイヤモンド社 ¥1,600

心に残った一文
正解を出す力にもはや意味はない。

現代を「モノの過剰化」による「問題の希少化」が進む時代と著者は分析し、求められる思考と行動様式を提起する。

社会や人間のあるべき姿を構想し「問題」を探す力が肝要とも訴える。ビジネスに軸足を置く本書だが、これらは新指導要領が求める「社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会を創る」資質・能力に通じ、傾聴に値する。

出会う人・こと・ものから、あるべき自己を模索し、問いを生む子供が育つ学校や教室を求め続けたい。そこには、自他への愛が育まれる感動の共有がほしい。

*紛争地の看護師 白川 優子
小学館 ¥1,400

*野村克也、明智光秀を語る 野村 克也
プレジデント社 ¥1,300

*〈あの絵〉のまえで 原田 マハ
幻冬舎 ¥1,400

六ツ美中部小 鈴木 誠